

8406 ジャーナリズムが「シラケ」と・・・

ジャーナリズムが「シラケ」と「アソビ」の世代というレッテルを振り回すようになつてすでに久しいが、このレッテルは現在も大勢において通用すると言えるだろう。そのことは決して憂うべき筋合いのものではない。（中略）シラケることによって既成の文脈一切から身を引き離し、一度すべてを相対化してみる方がずっといい。ぼくはこうした時代の感性を信じている。

浅田 彰『構造と力』

[許容訳例]

It is quite a long time since the press started labeling young people sweepingly as the “detached” generation or the generation “pursuing pleasure,” but these labels are still, probably, true for the most part today. This is, however, nothing to worry about.

It is better to separate oneself from the whole existing context and observe everything from a relative point of view, with a detached eye, I, for my part, go along with this trend of the times.

[翻訳例]

Some time has passed since the newspapers and magazines started making sweeping generalizations about the “disillusioned” or “pleasure-loving” generation, but the labels, it seems safe to say, are still by and large applicable today. This is in no sense something to worry about.

It is far better that one should be “disillusioned,” since this allows one to disassociate oneself from the existing context and make everything, for the moment, relative again. I, for one, am content to go along with the contemporary approach.

■ジャーナリズムが「シラケ」と「アソビ」の世代というレッテルを振り回すようになつてすでに久しいが、このレッテルは現在も大勢において通用すると言えるだろう。（8406）

★「ジャーナリズム」に journalism という英語を当てることは出来ません。journalism と言う言葉は、まず、On leaving university he took up journalism.のように‘仕事・職業’を指すか、あるいは This is mere journalism.のように、ちょっと軽蔑した感じで使うこともありますが、いわゆる「新聞・雑誌」という意味で使うことはまずないと思います。メディアとしての「新聞・雑誌」という意味では長くなりますが the newspapers and magazines ぐらいしかないと私は思います。あるいは the press とか、無冠詞で journalists と言い変えるしかないと思います。

★「シラケ」も、次の「アソビ」も非常に日本的な言葉で、ぴったりとこれらに合う英語はなかなか出てきません。「シラケ（の世代）」には detached でも意味はわかると思います。

他には disillusioned とか uncommitted とかも可能ですが、「シラケ」というのは「いろいろなことに対して簡単には乗らない、熱くならない」「何に対しても熱意をもたない・夢中にならない」とか「高い理想とか夢などもうもてない」という意味であれば disillusioned が一番いいと思います。

★「アソビ（の世代）」もむずかしいです。「シラケ」で何もしないのではなく「アソビ」はするとなると pleasure pursing (generation)も可能ですが、ちょっと強すぎる感じがします。 pleasure seeking[loving] generation くらいでしょう。

### ● [と]（選択）（「シラケ」と「アソビ」の世代）

[と]は文脈によって「並置(and)」、「選択(or)」、「同伴(with)」、「対象・対立(with; against)」、「比較(with)」などに使われます。「あそこに美子と貴子が立っている」は「並置」ですが「犬と猫ではどっちが好き？」は「選択」です。この「「シラケ」と「アソビ」の世代というレッテルを振り回す」は、「レッテルを振り回す」という表現から「「シラケ」の世代だとか、あるいは「アソビ」の世代だとすぐレッテルを貼る」と解釈することが出来ます。したがって、英語にする場合には and（並置）ではなく or（選択）で結ぶことになります。それから「シラケ」も「アソビ」も引用符付きで使われているので、英語でも double quotes を付けて the “disillusioned” or “pleasure-loving” generation とか the “disillusioned” generation or the “pleasure seeking” generation とかにすればいいでしょう。

★「レッテルを振り回す」という日本語は珍しい。まず「レッテル」をそのまま label としてよいか問題です。label は、普通は貼ったり紐で付けたりするもので「振り回す」ものではないからです。したがって、「レッテルを振り回す」に相当する英語はありません。筆者の言いたいことは「何にでも・・・というレッテルを貼ってしまう」という意味だろうと思います。その意味でなら label all and sundry という表現があります。all and sundry は決まった表現で‘何もかも（かまわずに）ひっくるめて’という意味になります。また、ちょっとニュアンスが違いますが make free with…（勝手に・思いのままに…する）という表現もあります。また、ちょっと固くなりますが make sweeping generalizations about…も使えると思います。なお、「振り回す」の中に「何もかも無差別に」というニュアンスが含まれていると解釈するなら indiscriminately という副詞を加えて indiscriminately use the label…のような表現にしてもいいと思います。

★「…するようになって」の「…ようになる」の訳としては to start[begin] to…とか to come to…が考えられますが、to come to…の方は、たとえば、I used to hate miso soup, but recently I've come to like it. というように、何かの状況・事情が変わった場合に使います。ですからここで come to を使うと、何かのきっかけでジャーナリストたち（の見方）が変わったという感じになり、ちょっと合わないと思います。たとえば、(It is some time since) journalists come to praise Trump. というと、これまで必ずしもそうではなかった、むしろ反対だった、という含みがあるわけです。したがって、ここでは start[begin] to…の方がいいです。あるいはちょっと論理的に合わないように思えるかもしれません。ここは(Some

time has passed since) journalists first started…のように firstを入れてもいい気もします。

★「すでに久しい」は It is a long time since…ですが、 very long time ではなく fairly とか considerably の感じで quite を加えて It is quite a long time since…とか、あるいは Some time has passed since…がいいと思います。

● [が] (逆接) →but とコンマ+which

「…すでに久しい [が]、このレッテルは…」の [が] ですが、前に「レッテル…」が出てくるので、前文の内容を先行詞として「コンマ+関係代名詞(…, which… )」が使えます。たとえば、Some time has passed since journalists started indiscriminately using the labels…, which may be still true…のように使っても間違いではないのですが、「コンマ+which」は、何となく which 以下のことをついでに述べるという感じになります。また、同時に、文法的には説明できないのですが、なんとなく、その次に and [but]…という文章を期待したくなります。ここは日本語の「…[が]、…」を、そのまま but…とした方がいいと思われます。

★「このレッテルは…」は the labels とか these labels です。the labels なら the labels in question の意味ですし、these labels だと「今言ったこのレッテル」ということになります。

★「現在も」は today が一番いいと思います。at present でもかまいませんが、これは「今のところ・目下」という感じになります。in the present は駄目です。これは、たとえば、He always lives in the present. (過去も将来も気にせずに現在に生きている) のように、ちょっと特殊な場合にしか使いません。

★「大勢において」の「大勢」は「おおぜい・たいぜい・たいせい」とも読みますが、ここでは「たいせい」と読んで「大筋となる形勢」の意味ですから、英語では for the most part でもいいのですが、「(細かい点はともかく) 全体的に・大体において・概して」と言う場合には by and large という表現をよく使います。

★「通用する」は be still true でもいいし、be still applicable でもいいでしょう。

★「…と言えるだろう」は it seems safe to say…とか it would seem…をうまく使うといいでしよう。副詞を使うなら probably くらいです。「言えるだろう」を「言えるかもしれない」と解釈するなら may も使うことができます。

■そのことは決して憂うべき筋合いのものではない。(中略)(8406)

●文技巧 (「そのこと」はどの部分を指すか)

上で [が] (逆接) を but にするか「コンマ+which」にするか話題にしましたが、その問題は代名詞 (ここでは「そのこと」) とも関係してきます。It is quite a long time since the press started labeling young people sweepingly as the “detached” generation or the generation “pursuing pleasure,” but these labels are still, probably, true for the most apart today. This is, however, nothing to worry about.の but these labels の部分は上の [が] で述べたように which でもいいのですが、そうすると、「そのこと」(This… )が「現在も通用する」の部分を受けるのか、「…すでに久しい」の部分を指すのかはっきりしないことに

なります。but…としておくことによって、「そのこと」(This…)<sup>1</sup>は「現在も通用する」の部分を受けることになります。

★「決して憂うべき筋合いのものではない」は nothing to worry about でもいいですが、もう少し「筋合いのものではない」という強さを含ませるとすれば、nothing to be deplored とするといいでしよう。あるいは「決して…ではない」を in no sense を使って be in no sense something to worry about とすることも出来ます。

■シラケることによって既成の文脈一切から身を引き離し、一度すべてを相対化してみる方がずっといい。(8406)

★「シラケることによって」は、直訳すれば by being disillusioned とか、with a detached eye で、これらを文末に置いても間違いではないのですが、日本語の趣旨は「シラケる方がずっといい、(なぜかというと)それによって既成の文脈から離れて、物事を相対化して見られるから」ですから、ちょっと弱い感じです。この処理は下の「文技巧」を参考にしてください。

★「既成の文脈一切から」は from the (whole) existing context でしょう。

★「身を引き離す」は separate oneself とか disassociate oneself でしょう。

★「一度」は、ここでは「改めて」の意味ですから again です。

★「すべてを相対化してみる」は observe everything from a relative point of view とか、make everything relative でしょう。なお、何となく for the moment (さしあたり) を加えたいような気がします。

★「…方がずっといい」は It is far better than…です。

●文技巧（シラケることによって…してみる方がずっといい）

「シラケることによって…してみる方がずっといい」は、順序をひっくり返すか、あるいは、なんとか工夫して日本語の順序を守るかが問題になります。

翻訳の基本は「できるだけ順序を変えないで訳す・直訳しない」ということですが、語順の点について言うと、日本語の文末の「…の方がずっといい」というような主観的判断は、英語では前に、日本語では末尾にという固有性があります。この固有性は変えようもありませんので、It is far better を前に置きます。ただそうでない部分についてはなるべく日本語の順序のままにしておいた方が自然になるということです。たとえば、この場合、日本語の表現に合わせて少し直訳的に訳すとすれば It is far better, by being disillusioned, to do…とも言えますが、これは英文としてはぎこちなく「直訳しない」とするルールを適応させると、It is far better to be disillusioned [It is far better that one should be “disillusioned,”] so that one can do…とした方が「順序を守りながら直訳しないでもっと英語らしく」になります。この so that one can…は「…できるように」というような意味ではなく、「そのことによって…する」という感じで使うわけで、日本語の「…ことによって […の結果]…する」に相当すると思います。この日本文の言おうとしている内容は「シラケる方がずっといい、(なぜかというと)それによって既成の文脈から

離れて、物事を相対化して見られるから」です。英語で言い換えると、It is far better that one should be “disillusioned,” so that one can disassociate oneself from the existing context and make everything relative again.となります。非常に微妙な問題になりますが、日本語通りの順序で出来るだけ自然の英語らしく工夫して「シラケることによって」の部分を前に出した方がいいと思います。

■ぼくはこうした時代の感性を信じている。(8406)

★「ぼくは」は、ここでは「少なくとも僕は」という感じなので I, for my part, …とか、I, for one, …がいいでしょう。

★「こうした時代の感性」の「こうした」は「時代の感性」全体にかかっているので this trend of the times とか the contemporary sensibility ですが、sensibility ではちょっとオーバーな感じがするし、何だか受け身的なニュアンスになります。ここは approach とか outlook くらいがいいと思います。

★「信じている」は、簡単そうで意外と訳しにくいところです。ここは「自分としてはまだ十分に納得したというわけではないが、そういう若者たちやることについてはそれでいいと思う」、つまり「……でいいと思う」(I am content with…)くらいの意味ですから I am content to go along with…とするといいと思います。